

以下述べる所には何等新事實と云ふべきものはない。又それとなく試みた判定の如きも、或はホルデイチ Holdich, メートラント Maitland, タルボット Talbot, イエート Yate 氏などのやうにロシア、アフガニスタン兩國々境の劃定委員であつた者、或はシムソン W. Simpson のやうに一八七八年から一八八〇年に互る英國遠征隊と同行した者、或は又米國旅行家マッソンのやうに強制的開國要求の結果却て完全な鎖國状態を導くに先立て、緩々見學することの出來た者、孰れにもせよ、是等の諸先輩に依て既に大抵提言又は論議されたものと考へる。就中、探檢家マッソンに就ては特筆する價值あるもので、何人も今日此の探檢に彼が示した程の忍耐力と鋭敏な觀察力とを發揮することは出來まい。又現地で興味ある情報を集めるにも彼が示した程の手際を見せることは出來まい。實際、彼の通つた後に言ふに足る程の收穫が残つてゐる筈がな
いと思つたが、余は幸にも立派な案内記のお蔭で彼よりも有利な地位に立つことが出來た譯である。彼がアレキサンダー大王並びに其の後繼者を偲ぶべき何物かを求めようとして精一杯の努力を爲し、僅